

## アジアのこぼれを学ぶ ②

## 神戸甲北高等学校の取り組み

「アジアのこぼれを学ぶ」では教師だけでなく学習者の視点も取り入れながら中国語と韓国朝鮮語教育の現況を紹介していきます。

兵庫県立神戸甲北高等学校は、1997年に兵庫県で初の総合学科高校<sup>注1</sup>に改編されました。改編に際して、学力観の刷新や課題の明確化、新しい科目の創造と柔軟な教育課程の編成に取組み、教育目標<sup>注2</sup>をまとめました。特に、生徒一人ひとりが他者と異なる自己を確立することを大切に考えています。

## 在日外国人教育への視点 「アジアと結ぶ」

神戸甲北高校には現在、外国籍の生徒が10名います。韓国朝鮮籍の生徒が5名、そのほかは中国・ブラジル・ベトナム籍の生徒です。この中で華僑の生徒は民族をオープンにしていますが、その他の生徒は容易にできません。在日韓国朝鮮人生徒の多くは通名で学校生活を送っていますが、学校では彼らが本名を名乗り、自らに誇りを持って堂々と生きていけるよう指導しています。

自民族の文化やこぼれの学習ができることを保障する学校を創るためには、日本人生徒や教職員の意識を変える必要があります。神戸甲北高校では、在日外国人教育が重要であるとして、これを教育の柱におき、国籍、民族、言語、文化などの違いを超えて外国籍の生徒を柔軟に受け入れるとともに、人権感覚に鋭敏な人間を育む学校づくりを進めています。

神戸には在日韓国朝鮮人や華僑・華人も多く、近年はアジア各国や南米からのニューカマーも増加しています。キャッチフレーズの一つに「アジアと結ぶ」を掲げ、「アジア」に基軸を置いた国際化を志向した背景には、国際都市にある高校としての使命感があります。外国語科目に韓国朝鮮語、中国語、ベトナム語、インドネシア語を設置し、また地歴公民科目に日韓日朝関係史や近現代史を置いたり、人権の歴史と人権問題研究を設けることによって、アジア言語の科目を側面から支えています。

韓国朝鮮語と中国語は、2・3年次生の選択科目として開講しています。各3単位で、継続して履修すれば6単位になります。ベトナム語・インドネシア語は2単位です。履修者は現在全体で中国語41名、韓国朝鮮語10名、ベトナム語5名、インドネシア語4名です。

## 韓国や中国の高校との交流

96年7月に開催した文化祭の初日に行われた蔚山(ウルサン)情報通信高校との姉妹校提携式では、在日韓国人の女子生徒が、堂々と母国語で挨拶を行いました。初めて全校生徒の前で本名を名乗り、自らが在日韓国人3世であることを日韓の歴史に触れな

がら明らかにしました。これを契機に、彼女は韓国人としての自覚を深め、ことし釜山大学に進学しました。

97年の夏休みには生徒52名が、2泊3日の日程で蔚山情報通信高校を訪問しました。短いホームステイでしたが、別れ際に韓国の生徒に抱きついて涙を流すほど交流を深めることができました。98年1月には、韓国側から約50名の高校生が来日し、神戸甲北高校の生徒の家にホームステイしましたが、ホームステイ先の家族にとっても貴重な体験だったようです。99年1月にも30名が来校し、7月には15名が訪韓して、交流事業は進展しています。

97年12月に県教育委員会が海外修学旅行を認可したのを受け、98年度には韓国への修学旅行を実施しました。在日韓国人の著書を読んだ感想をもとに各生徒が1分間スピーチをしたり、ビデオ学習や語学学習、歴史学習、講演会など事前学習を経て生徒たちは着実に知識を高めていきました。

修学旅行のハイライトは蔚山情報通信高校との交流会でした。多くの生徒は交流そのものにはあまり期待をもっていないようでした。しかし蔚山高校側の積極的な姿勢に感銘を受け、彼らも進んで交流するようになりました。自由交流の時は片言の英語と韓国語に身ぶり手ぶりをまじえ、初対面とは思えないほど打ちどけた雰囲気で行われ、別れ際には涙を流す生徒さえいました。帰国後の感想文に「行く前は気乗りしなかったけれど、ほんとうに行ってよかった」と書く生徒が多くいました。本年11月には、第2回の韓国修学旅行を実施する予定です。

神戸甲北高校は中国上海市にある上海位育中学日本の高校に相当とも姉妹校提携の準備を進めています。今年の3月には、教頭、中国語担当教諭と高校2年生の生徒7名が位育中学を訪問しました。往きの船中にはじまり、1週間の日程のあらゆる場面で、生徒たちは、文化や生活の違いなど教科書では学べないことを学習し、また体験しました。今後は相互訪問、インターネットによる交流を進めていく予定です。

神戸甲北高校の日韓・日中の交流は、こうした活動を通じてさらに深まっていくことが期待されます。

本稿は、神戸甲北高校の藤川正夫・岡田正両氏の報告文をもとにTJFが編集しました。

注1:普通教科と専門教科にわたって多様な教科・科目を開設し、生徒が自ら興味や関心に基づいて主体的に履修科目を選択する制度。普通科・専門学科に対する第三の学科として、93年3月に制度化、94年度から全国的に設置された。

注2:①自分で物事を考え、行動できる「賢さ」を育む ②人生を自ら切り拓く力と自己教育力を育む ③個性を尊重し「違い」を認め合い高め合う関係を築き、「人間としての尊厳」を育む。